

ACTH				7405000	
				担当部署	
ACTH				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		溶血により低値化する。 EDTA 濃度依存的に測定値が低下するため、採血は規定量を原則とする。			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		ACTH の分泌は覚醒時(早朝安静時)にピークを示し、PM6:00-AM2:00 に低値(ピークの半分以下)となるので早朝安静時に採血することが望ましい。 三菱化学メディエンス 検査項目解説 改訂第 4 版 223			
検体採取の特別なタイミング		負荷試験時や日内変動採血指示などの指示がある場合、指示通り			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	1 紫 ACTH 用	EDTA-2K	2	mL
2	他材料	1 紫 ACTH 用	EDTA-2K	2	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		冷蔵			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			

保管検体の保存期間		当日保存のみ(追加検査については、検査室に要問合せ)				
検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		8.7～61.5 pg/mL AIA-パック CL ACTH 試薬添付文書				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	pg/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
8.7	61.5	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値		高値	設定なし			
		低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		ACTH は下垂体前葉で合成、分泌される 39 個のアミノ酸からなるポリペプチドで、βリポトロピンと共通の前駆体から酵素分解されて産生される。 ACTH の分泌調節は主に視床下部の CRH (コルチコトロピン放出ホルモン)と標的臓器である副腎のグルコルチコイドによるフィードバックにより行われるが、各種のアミン類やストレスも ACTH 分泌を促進する。 ACTH の生理作用は副腎皮質によるステロイドホルモン産生を促すほか、脂質分解作用やメラニン色素の生成作用などがある。 三菱化学メディエンス 検査項目解説 改訂第 4 版 223				